

## 平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 上川地区
- 2 事例報告学校名 : 東川町立東川第二小学校
- 3 報告者 : 校長 大垣 秀彦
- 4 キーワード : 連携～地域連携・学校間連携で信頼される学校づくり～



### 1 はじめに：学校の概要

本校は、東川町の中心街より北東へ約4kmに位置する周囲に田畑が広がるのどかな田園地域にあり、児童数41名の小規模校である。校区は、明治28年に入植した富山団体が、開拓の鋤を下ろしてから120年を越える歴史をもつ。先人の苦勞で拓いた肥沃な大地から生み出されるお米や新鮮な野菜は、高い評価を受けている。

また近年は、優れた景観に見せられた写真・陶芸・工芸家たちが居住するようになり、本校在籍児童の保護者の職業も多様化してきている。

旭川市近郊地域として、地理的・文化的な接触が深く、生活態様も都市化傾向を強めている。校区全戸をもって組織しているPTA活動、学校行事への協力等、学校に対する愛着心は非常に強いものがある。それだけに、学校教育に対する保護者・地域住民の期待は大きく、まさに「地域とともに生きる学校」である。

### 2 地域との連携・協働の取組

#### (1) コミュニティ・スクール推進の取組

本校では平成30年2月に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールがスタートした。年間3回、会議を開催（経営方針の承認、地域人材活用、成果・課題の共有等）している。今後も地域、保護者の願いを大切にしながら、学校ができること、地域ができることを率直に話し合える場としていきたい。

#### (2) 写真の学校

本校は特色ある教育活動の1つとして「写真の学校」を進めている。東川町は写真の町・写真文化首都を宣言しており、町の取組にあわせて本校でも総合的な学習の時間において「自然とふれあうこと」「未来をみつめること」をテーマにファインダーを覗き、自分の心にふれるシーンを撮ることで、ふるさと東川をみつめ、社会を知る機会としている。撮影指導については、地域人材である校区在住の写真家の協力をいただいている。



#### (3) 越中踊り

地域伝統文化である「越中踊り」を学校教育の中に取り入れ、全校で運動会に披露している。地域での踊り手が少なくなっていく中、子どもたちによって文化を受けついでいってほしいという地域の願いから取組が始まっている。対外的な活動は「越中踊り子ども保存会」が中心となるが、地域からの学校での伝承活動への期待は高い。



#### (4) 地域人材の活用

地域ボランティアの方々や旭川大学の教授・ゼミ生を講師に招いた「食育教室」を行っている。年2回の「お弁当の日」では、自分の手でお弁当を作る活動を仕組み、保護者との連携を図りながら、取組を進めて

いる。また、リコーダーの会「イコロ」のみなさんによるリコーダ教室・演奏会や地域の消防団の協力を得ながら進めた学習活動なども展開している。

### (5) 校区もちつき大会

学校の開校記念日のお祝いとして「もちつき大会」が始まった。現在は、教育課程外としているが、学校とPTAが中心となり、地域の方々を招いてもちつきを実施している。



## 3 学校間連携推進の取組

### (1) 東川町学力向上推進協議会の取組

東川町では各小中学校と幼児センターの管理職、ミドルリーダーで協議会を設置している。5つの小委員会（アンケート、写真絵日記・標語、講演会、幼小中連携、先進地視察）のリーダーに各校長が配置され、全町統一した各種の取組が進められている。

### (2) 文科省研究開発学校指定「グローブ」の取組

平成29年度から4年間、東川町内の幼小中高7校園が国際教育「グローブ」で研究開発学校の指定を受けている。各校の管理職が研究推進連絡協議会のメンバーとなり、研究推進委員（ワーキンググループ）には各校から研究担当者が所属している。



昨年度はグローブのカリキュラムの作成を中心に行い、今年度より実践を行い、教育課程の実施・検証を進めている。義務教育9年間だけでなく、幼児期から高等学校までを見据えたカリキュラムとなっており、校種を越えて研究を進めることができている。

### (3) 中1ギャップ問題未然防止事業の取組

東川中学校区で道教委の中1ギャップ問題未然防止事業の指定を受けており、全町で子ども理解支援ツール「ほっと」を活用分析し課題を共有している。中学校教諭による乗り入れ授業を実施している。

## 4 おわりに

今までも、地域人材を活用した学習活動は多く取り入れられてきた。もう一度、その必要性和効果を考えながら教育課程の見直しを図っていきたい。また、幼小・小小・小中の連携はこれからの学校においてますます重要になっていくものと考え。「地域とともにある学校づくり」と「地域づくり」をつなぐものが「社会に開かれた教育課程」であると考え。今後も地域社会による学校応援団の下、教育活動を進めていきたいと考えている。